

Tidal Enterprise Orchestrator : オートメーションの要約の作成および使用

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[自動化サマリについて](#)

[自動化サマリの使用](#)

[自動化サマリの作成方法](#)

概要

この資料は Cisco Process Orchestrator (CPO) でオートメーション 要約の作成および使用方法を記述したものです。

前提条件

要件

Cisco は CPO で書く一般のプロセスのナレッジがあることを推奨します。

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は基づいた on Cisco Process Orchestrator バージョン 3.0 またはそれ以降です。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

[自動化サマリについて](#)

オートメーション 要約は CPO が動作したプロセスのアクティビティの出力についてのその保持情報を生成し、共有できる XML ベース 文書です。これらの自動化サマリは、UNC の共有、または仮想ディレクトリを通じて共有できます。デフォルトで、システムに 30 日間保持されてから削除されますが、この期限を長く、または短く設定できます。

[自動化サマリの使用](#)

自動化サマリは、特にプロセス インスタンスとアクティビティ インスタンスがアーカイブされていないときに、多数の対象者にプロセスの出力を送信する場合、またはプロセスの出力を保存す

る場合に使用してください。また、ITIL インシデントやアラートに添付される重要なレポートにすることもできます。

[自動化サマリの作成方法](#)

次の手順を実行します。

1. ドラッグ・アンド・ドロップは**作成オートメーション 要約、事件を作成するか、またはプロセスにアラート アクティビティを作成します。**
2. [Create Automation Summary] を使用している場合は、手順 4 に進みます。その他を使用している場合は、手順 3 に進みます。
3. [Create Incident] または [Create Alert] をドロップしたら、自動化サマリのタブに移動し、1 つ選択して作成します。
4. [Automation Summary configuration] タブで、レポートを作成するボックスのアクティビティを選択して、それぞれに必要な分析スタイルを新しく指定します。また、1 つのアクティビティのみを**根本原因**として選択することもできます。
5. 根本原因とするアクティビティを選択すると、自動化サマリの一番上にコピーされます。
6. プロセスを実行すると、自動化サマリが作成され、設定した共有設定に保存されます。通常、プロセスの一環としてこのリンクを電子メールで送信するなど、エンドユーザーにその存在を知らせることをお勧めします。